

小学校第1学年2組 音楽科学習指導案

【日時】令和4年11月1日（火）10：00～10：45 【場所】1年2組教室 【指導者】御厨 有花

本授業の主張点

児童が、身の回りにある楽器や物の音色をいかして、花火の音を表現します。思いをもって楽器を選んだり鳴らし方を考えたりして、音のつなげ方や重ね方を工夫しながら音楽づくりを楽しむ児童の姿をお見せします。

1 題材名 ようすを おもいうかべよう

2 題材の構想

(1) 題材について

本題材は、歌詞の表す様子や場面の様子を想像したことをもとに、思いをもって表情豊かに演奏したり音楽をつくったりすることがねらいである。音楽や歌詞の内容をもとに情景を思い浮かべる学習の始まりであり、普段からいろいろな気分を感じながら音楽を聴いている子どもたちが、より意識的に想像力を働かせて音楽と向き合うことができるようにする。また、第1学年の学習を踏まえながら、第2学年の「ようすをおもいうかべよう」では、より多様な音楽との出会いにつながっていく。音読や体の動きを伴った活動などを通して曲の雰囲気を感じ取り、それと音楽とを結び付けていくことを通して、児童は曲想や語感に合った表現を工夫し、音楽のよさや面白さを見出していく。また、生活体験を生かした音楽づくりの活動を通して、音楽を身近に感じ、自分なりの思いをもった音楽経験を重ねていく。そして、児童が生活の中にある様々な音や音楽と、より豊かに関わることができるよう、題材を構成していく。

(2) 児童について

本学級の児童は、音楽活動に意欲的な児童が多く、音楽の授業が始まる前に歌唱曲集を開いている。伴奏が始まれば、自然と体を揺らしながら歌ったり、拍を手拍子でうったりして楽しんで歌を歌っている。休み時間にも教師や友達と歌ったり手遊びやリズムあそびをしたりする様子も見られる、9月に行った意識調査では、「おんがくは好きですか」という問いに対し、「だいすき・すき」と答えた児童は35名中32名であった。その理由については「うたうことが好き」「たのしいから」などと回答する児童がいたことから、音楽活動を感覚的に楽しんでいることがわかる。また「あまり好きではない」と回答した児童は、恥ずかしがったり苦手だったりとして表現活動を楽しむことができていない。

そこで、本題材では身近な生活体験をいかした音楽づくりを設定することで、いろいろな楽器の音色や身の回りの音に興味を持つことができるようにする。音色の違いや特徴に着目して、音や音楽が自分や生活に意味のあるものとして気付くことができるように展開することが必要である。

(3) 指導について

指導にあたっては、まず一次目に教材曲「きらきらぼし」を用い、星空の様子を思い浮かべて歌唱したり器楽演奏したりできるようにする。自分の音だけでなく全体の響きを聴きながら演奏し、歌声や楽器の音色が生み出すよさや面白さを感じながら、曲想にそった表現を工夫する活動を行う。次に二次目では、児童の生活の中から夏休みに体験した「花火」を取り上げ、星空の下と関連付けて「花火の音」の音楽づくりを行う。家庭でどんな花火を行ったのか思い出し、中でもなじみのある「手持ち花火」「線香花火」「打ち上げ花火」にしばって花火の音を表現するようにする。次に、身の回りにある楽器や物から花火の音を表現できそうなものを一つ選択し、音の鳴らし方やつなげ方、重ね方を工夫して音楽をつくっていく。終末には発表会を行い、同じ花火を選択していてもその表現の違いのおもしろさや、違う花火の表現のよさに気付かせる。三次目では、教材曲「はるなつあきふゆ」を用い、歌詞に着目し、歌詞の表す情景や気持ちに合わせて表現の仕方を工夫する学習へとつなげていく。友達と交流していく中で共有感を味わい、音楽のよさや面白さに気付くことができるよう展開したい。

(4) 深い学びについて

本題材で働かせる音楽的な見方・考え方は「歌詞や場面の様子を思いをもつて表現するために、音楽を形づくっている要素と関連付けて考え演奏している」姿だと捉える。音楽的な見方・考え方を働かせながら学ぶ本題材及び本時における児童の姿を全体要項の「深い学び」に関わる児童の姿と関連させると表 1 のようになる。

表 1 本単元で目指す「深い学び」に関わる児童の姿

	「深い学び」に関わる児童の姿	本単元及び本時における児童の姿
①	学習活動に見通しをもち、計画を立てたり調整したりしながら、粘り強く取り組み続けている。学習課題に対して関心をもち、主体的に課題解決を図ろうとしている。	自らの経験を振り返り、生活に身近な花火の音を取り上げることで、生活の中の音も音楽として表現することに気付き、楽しんで音楽づくりをしようとしている。
②	「見方・考え方」を働かせながら思考・判断・表現し、自分の考えを再構築している。	楽器の音色や強弱、音の重なりに着目し、試行錯誤しながら音を選ぼうとしている。
③	知識が概念化し、知識の質が高まっている。	楽器の音色を理解し、様子に合う音と関連して考えることができる。
④	学びの成果を次の学習や生き方に生かす目的意識や達成感を得ている。	発表を聴き合うことによって多様な表現に触れ、互いを認め合い、自らの表現の意欲につながっている。
⑤	他教科等の学びの経験を結び付け、意欲を高めたり、解決の道筋を広げたりしている。	生活科で描いた夏休みの思い出の絵日記を活用し、様子や気持ちを思い出してつくろうとしている。

(5) 教材曲について

教材曲名・作曲者等	楽曲について・期待できる学び
「きらきらぼし」 日本語訳 武鹿悦子 フランス民謡	＜楽曲について＞三部形式でできており、原曲はフランス民謡とされているが、古くからヨーロッパを中心に広く親しまれている。「Les Trois Poules(3羽のにわとり)」「Twinkle Little Star」「The ABC Song」など様々な歌詞で歌われている。 ＜期待できる学び＞夜空に光るたくさんの星を想像しながら、「きれいな星空に合う声で歌う」という気持ちを引き出し、声の出し方や表現の仕方の工夫へとつなげることができる。また、星空の様子と旋律の音の動きとの関わりを考えることで、音色、強弱、フレーズなどを意識して演奏の仕方を工夫することができる。
「はるなつあきふゆ」 作詞・作曲 三浦真理	＜楽曲について＞一部形式でできており、歌詞の内容に応じて表現を工夫する学習のために作曲されている。1 番から 4 番までの歌詞の内容に即して伴奏も毎回変化している。 ＜期待できる学び＞子どもたちに分かりやすい言葉で表現されており挿絵からも季節の様子が思い浮かべやすく、四季のイメージを広げることができる。

3 題材の目標と評価規準

(1) 題材の目標

・曲想と歌詞の表す様子、旋律、強弱や速度などとの関わりに気づき、場面の様子にあった表現の仕方に思いをもち、友だちと話し合いながら楽しんで工夫をすることができる。

(2) 評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
・楽器の音色や旋律と曲想の関わりや、楽器の音色と演奏の仕方との関わりに気づき、自分の音に気をつけて演奏する技能を身につけて演奏している。 ・楽器の音色や特徴を生かした音のつなげ方や重ね方の違いに気づき、思いにあった音楽をつくる技能を身につけてつくっている。	・楽器の音の特徴を生かして、即興的に音を出したり選んだりつなげたりして、音楽づくりの発想を得ている。 ・歌声や、楽器の音色、旋律の特徴、音楽の要素などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、どのように工夫し表現するかについて思いをもっている。	・歌詞の表す情景や気持ち、楽器の音色や曲想との関わりに興味・関心をもち、表現の仕方を工夫する学習に楽しんで取り組もうとしている。 ・楽器の音色の特徴に興味・関心をもち、友だちと一緒に音をつなげたり重ねたりして音楽をつくる学習に楽しんで取り組もうとしている。

4 題材の指導計画（全9時間 本時 5／9時間目）

次	時	主な学習活動（○）	指導上の留意点（・）	評価規準（◆）【観点】
一	1	○範唱をきいて、曲想を感じ取って歌詞や階名で歌う。	・挿絵や写真を掲示し、星空の様子や歌詞の情景を思い浮かべやすいようにする。 ・絵譜の階名を指でさしながら歌い、音の高さを意識できるようにする。	◆範唱を聴いて、階名で模唱する技能を身につけて歌っている。 【知・技】
	2	○音色に気をつけて、鉄琴や鍵盤ハーモニカで演奏する。	・階名で歌い、鉄琴や鍵盤ハーモニカで演奏しやすいようにする。 ・楽器の音量のバランスを考慮し、聴き合いながら交代で演奏する。	◆楽器の音色や演奏の仕方との関わりに気づき、自分の音に気をつけて演奏する技能を身につけている。 【知・技】
	3	○互いの音を聞き合いながら、声や音を合わせて演奏する。	・自分の音だけでなく、全体の響きを聴きながら演奏できるよう助言する。 ・演奏する組には、どのような工夫をしたか、聴く組にはどのように感じたかについて発言できるようにし、互いのよさを認め合う場を設ける。	◆歌声や楽器の音色などが生み出すよさや面白さを感じ、聴き取ったことと聞き取ったこととの関わりについて考え、歌い方や演奏の仕方を工夫し、どのように表現するかについて思いをもっている。 【思・判・表】
二	4	○「花火」のイメージに合った音を身の回りの楽器や音の出るものから選ぶ。	・夏休みの夜に花火をした経験を思い出し、花火はどのような音が出るか擬音語などで表す。 ・自分が出してみたい花火の音がどんな楽器やもので出せるかたくさん試し、一つ選ぶ。	◆楽器や音の出るものの特徴を生かして、即興的に音を出したり選んだりつなげたりして音楽づくりの発想を得ている。 【思・判・表】
	5 本時	○友達と相談しながら、音をつなげたり重ねたりして「たのしいはなびのおと」をつくる。	・グループに分かれ、音をつなげたり重ねたりすることで表現したい花火に合った音を考えていく。 ・音が再現できるように、絵や線、擬音語などで表し音を可視化できるようにする。	◆楽器の音色や強弱、音の重なりを、表現したい様子や音と結び付けて考え、音の出し方を工夫しどのように演奏するかについて思いをもっている。 【思・判・表】
	6	○グループで「たのしいはなびのおと」を工夫する。	・同じ花火のグループで集まり、作った音を紹介し合うことにより、より工夫できそうなところを考える。	◆楽器の音色の特徴に興味関心をもち、友だちと一緒に音をつなげたり重ねたりして音楽をつくる学習に楽しんで取り組もうとしている。 【主】
	7	○「たのしいはなびのおと」の発表会をする。	・工夫したところを具体的に示し、グループごとに花火の音を演奏する。 ・楽器の音色や強弱、音の重なりなどがどのように使われているかを確かめ合うようにする。	◆思いに合った表現をするために必要な要素を用いて、花火に合った音楽をつくる技能を身につけてつくっている。 【知・技】
三	8	○歌詞の表す情景や気持ちを想像しながら歌い、表現の仕方を工夫する。	・体を動かして表現することで、歌詞の表す情景や気持ちを感知取るようにする。 ・いろいろな歌い方を試し、どのような声、強弱、速度で歌いたいか、歌い方を工夫できるようにする。	◆歌詞の表す情景や気持ちと曲想との関わりに興味・関心をもち、曲想に合う強弱や速度を工夫して歌う学習に楽しんで取り組もうとしている。 【主】
	9	○友達と協力し合いながら表現の仕方を工夫する。	・グループをつくり、それぞれの場面ごとにどのように歌いたいかを考えて歌う。 ・違う季節のグループで集まり歌い方を紹介し合う。 ・表現の仕方や歌い方で工夫したところを発表して、曲想に合った歌い方になっているか確かめる。	◆自分の歌声や友達の歌声を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、強弱や速度を工夫してどのように歌うかについて思いをもっている。 【思・判・表】

5 本時の指導

(1) 深い学びの姿

学習活動に見通しをもち、計画を立てたり調整したりしながら、粘り強く取り組み続けている。	○
学習課題に対して関心をもち、主体的に課題解決を図ろうとしている。	○
「見方・考え方」を働かせながら思考・判断・表現し、自分の考えを再構築している。	○
知識が概念化し、知識の質が高まっている。	
学びの成果を次の学習や生き方に生かす目的意識や達成感を得ている。	
他教科等の学びの経験を結び付け、意欲を高めたり、解決の道筋を広げたりしている。	

(2) 指導目標

楽器の音色と表現したい様子を結び付けて考え、音の出し方を工夫し、どのように演奏するかについて思いをもって演奏することができるようにする。

(3) 評価規準

イ 楽器の音色と表現したい様子を結び付けて考え、音の出し方を工夫し、どのように演奏するかについて思いをもって演奏している。【思・判・表】

(4) 「見方・考え方」を働かせる手立て

児童が本時の授業において音楽的な「見方・考え方」を働かせている姿を「花火の音を表現するために楽器の音色や強弱、音の重なりに着目し工夫して演奏している」と捉えている。そのために以下の手立てをとる。①生活の中で身近な「花火の音」を教材化②音楽の可視化（知覚・感受したこととの関連付け）③終末の工夫（つくった花火の音のよさや面白さ美しさ）

(5) 展開

学習活動と児童の反応（ ）	教師の働きかけと形成的評価（◆）
1 音あてクイズをする。（5分） ・この音は高い音がするからトライアングルかな。 ・カサカサしている音はマラカスかな。	1-(1) 音色に着目するために、前時で子どもたちが選んだ楽器の音あてクイズをする。 1-(2) これらの音が花火のどんな音に聞こえるか問いながら本時のめあてにつなげる。
じぶんたちだけのはなびのおとをつくろう	
2 グループに分かれ、「たのしいはなびのおと」をつくる。（20分） 【手持ち花火グループ】 ・最初に火がついた音はどの楽器の音がいいかな。 「シュー」っていきおいよくでる音は、トライアングルをたくさんならしてみようかな。 ・だんだん音が小さくなって、最後は消えたよ。どうしたらいいだろう。 【線香花火グループ】 ・最初は小さい音だね。 ・「シュッシュ」という音がするよ。このおとに近い音をさがしてみよう。 ・音が変わったね。「パッパツ」という音は、すずみたいだね。 ・最後ポトリと落ちるよ。どの楽器にするかな。 【打ち上げ花火グループ】 ・打ちあがるときに「ヒュン」っていうね。何の音にしようかな。 ・その後の「パン」というおとはシンバルがあうかな。 ・「ヒュンヒュン」何回も出てきたね。だれがこの音を鳴らそうか。	2-(1) 前時で決めた、自分がつくりたい花火の音のグループに分かれて活動する。 2-(2) 花火の始まりから終わりまでの様子が音で表現できるようにするために、動画で確認できるようにする。 2-(3) どのような音を使うのか、音のつなげ方や重ね方をどのようにしたら表現できるかを考えながら花火の音をつくることができるよう、実際に音を鳴らしながら考えるよう促す。 ◆ 楽器の音色と表現したい様子を結び付けて考え、音の出し方を工夫しているか。 (ワークシート・児童の様子)【思・表・判】 B 楽器の音色と表現したい様子を結び付けて考え、音の出し方を工夫している。 C→選んだ楽器が花火のどこの部分の音にぴったり合うかを問い、楽器の鳴らし方を考えるよう促す。
3 発表する。（15分）	3 友達のつくった花火の音のよさを伝えたり工夫した点を共有したりして、音づくりのポイントを確認する。
4 本時を振り返り、次時の活動を知る。（5分） ・友達のグループのように、最後はもっと静かに消えるように楽器を減らしてみよう。 ・もっと音を重ねてみよう。	4-(1) 自分たちのつくった花火の音がどうだったかを発表することで自分の学びを実感させる。 4-(2) 友だちの発表を聴いて、自分たちがさらに工夫できるところがないかを考えることで、次時への見通しをもつ。

